

第1回二宮町行政改革検討委員会 会議要旨

開催日時	平成27年2月13日（金）14時00分～16時15分	
開催場所	二宮町役場2階 第一会議室	
出席者	委員	出席7名 後藤伸委員、手塚明美委員、石黒賢路委員、柳川幸司委員、佐久間良輔委員、水口圭三委員、露木孝子委員
	その他	傍聴 2名
	町職員	政策部長
	事務局	政策部企画政策課3名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 委嘱状の交付 4. 自己紹介 5. 会長及び職務代理者の選出 6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 町の行政改革の取組みについて (2) 二宮町の現在と課題について (3) その他 4. 閉会 	
配布資料	<p>資料1 二宮町行政改革検討委員会設置要綱 二宮町行政改革検討委員会の会議及び会議記録の公開に関する取扱要領 二宮町行政改革検討委員会会議傍聴要領</p> <p>資料2 二宮町行政改革検討委員会委員名簿</p> <p>資料3 行政改革の取組方針について</p> <p>資料4 二宮町行政改革大綱（平成22年度～平成26年度）</p> <p>資料5 新たな行政改革大綱の策定に向けた基本方針（案）</p> <p>資料6 町の人口</p> <p>資料7 町の財政状況</p> <p>資料8 二宮町公共施設再配置に関する基本方針（抜粋）</p> <p>参考資料 第5次二宮町総合計画基本構想2013-2022 （平成25年度～平成34年度）</p> <p>参考資料 第5次二宮町総合計画前期基本構想2013-2015 （平成25年度～平成27年度）</p>	

■会議概要

1. 開会

2. あいさつ

3. 委嘱状の交付

4. 自己紹介

5. 会長及び職務代理の選出

会長を後藤伸委員、職務代理を手塚明美委員に決定する。

6. 議 題 【質疑・意見など】（※◎は会長、○は委員、●は事務局の発言）

(1) 町の行政改革の取組みについて

- 過去の行政改革には同様の項目があるはずである。トレンドを継承して検討した方が良い。次どこからやればいいかわからないと思う。継続性が必要なのでは。
- 年度ごとの評価は行っており次年度早々には報告できるが、現状で未実施の項目をそのまま入れることは避けたい。
- これまでの大綱の中で改革が達成できた項目は何か。達成できた項目が成功事例となる。二宮町に合った方向性を持つ項目であると判断できる。
- 需要に応じた施設の開館を実施した。温水プールの利用・施設の集約化・公共施設白書の作成を行い、再配置に向けた取組みを行っている。
- 人口減少により、考え方を変えないと町の経営は難しくなる。企業の考え方では人口が1割減るだけで大きく変わってしまう。
- ◎人口による税の増減の推移は把握しているのか。入りと出のバランスのどこをいじったらいいかわからないと思う。
- 事業1つ1つが理解できれば行政改革すべきものが理解できると思う。また、評価システムを今後どのようにしていくのか。わかりやすいものが良いと思う。
- 事務の効率化が重要では。作業効率・事務の効率化をはかるため、不要な業務を見分けるワークサンプリングを行い、数値化していくと良い。
- これまでの事業の評価についてはホームページで公表しているので確認して頂きたい。
- ◎これまでの大綱のPDCAが明確に見えてこないので、今回の大綱は数値目標を明確にすることが必要である。

(2) 二宮町の現在と課題について

- 基本方針は3項目に絞っている。視点を大きなものにしていきたい。人口が減る時代になるので、組織・財政・町民の力の3つに視点を置く。前回と整理の仕方を変えている。
- ◎計画年度に対し目標立てはするのか。
- 実施計画にて個別の目標を設定する。
- 業務に対する意識改革を重視した方が良い。まずは職場を明るくすべきである。役場は暗いイメージがある。また、書類の中に埋もれてみえる。民間には無い光景である。また、人材育成をしていかななくてはならない。人材育成がサービスの向上に繋がると思う。
- 時代に合ったとは、どこに尺度を合わせていくのか。
- 質の向上としてのダウンサイジングを目標としている。
- 効率向上を目指すのは良いと思う。時代に合ったものであると思う。
- ルーチングワークは事務としてあると思うが、正確で早く人件費を少なくするために、IT化を企業は導入している。
- IT化は個別施策に入れ込んでいきたい。今回は大枠の柱を検討していただきたい。

- 経費削減に目が行くと思うが、費用をかけるところと節約するところを考えなくてはならない。
- 職員の意識改革も必要であると思う。
- ◎IT化は良いが、フェイス・トゥ・フェイスの事務が中心となるのは難しいと思う。
- 地方分権が進む中、効率性を高めるため、作業分析を行う必要があると思う。
- ◎施設の統廃合について、具体的に目標年次等方針はあるのか。
- 公共施設の再配置計画において実施をしていく。3原則に照らしあわせて実施していく。
- 財源は何かあるのか。
- 教育施設が多くしめている。今後どのように統廃合等整理していくかが今後の課題となる。
- 財政面において削る所の見定めが重要であると思う。
- 高齢化率が今後高くなる。健康寿命を延ばす施策の検討が必要であると思う。1歳寿命をのばすと効果がどれくらいあるのか考えてみてはどうか。
- ◎行革の方針にこの様な方針を入れ込むことはできるのか。
- 高齢化により健康保険料の増加も関係してくる。町は社会福祉協議会と連携した福祉施策の検討・サロン事業の効率化をはかる必要があると思う。
- 総合計画と連携した行政改革とあるが、考え方は相反するため、関係性を検討した方が良い。
- 町民の協働について、町民ではなく多様な主体の方が良い。町民の他にも協働していく場面がある。
- 協働の定義の確認が必要である。協働とはお互いが対等の立場・もてる力が対等という意味である。
- 多くのセクターとの関わり・外へ出す様なイメージであれば『多様な』の言葉が適切であると思う。
- 協働に対する良い事例を紹介していただくとイメージがわくと思う。
- 現在町民課でおこなっている町民活動推進補助金についても検討が必要であると考えている。
- 事業の運営費等が行政改革により改善されるのであれば推進していくべきであると感じる。

(3) その他について

- 事務局で本日の意見をまとめ、町の行革改革本部で柱を決めていく。次回報告を行う。
- 次回会議は4月中・下旬頃を考えている。また、資料は事前送付を行う。

7. 閉 会